NHKスペシャル

日本の進路を問う

21世紀日本の課題 安全保障

NHK「21世紀日本の課題 安全保障」プロジェクト・編

112
H4
370

NHKスペシャル

21世紀日本の課題 安全保障

日本の進路を問う

苏工业学院图书馆
藏书章

NHK「21世紀日本の課題 安全保障」プロジェクト・編

NHK出版

NHKスペシャル　21世紀日本の課題 安全保障

日本の進路を問う

2004（平成16）年1月30日　第1刷発行

編者　NHK「21世紀日本の課題　安全保障」プロジェクト
©2004　NHK
発行者　松尾　武
発行所　日本放送出版協会（NHK出版）
〒150－8081　東京都渋谷区宇田川町41－1
電話　03－3780－3327［編集］
03－3780－3339［販売］
http://www.nhk-book.co.jp
振替　00110－1－49701
印刷・製本　図書印刷

造本には十分注意しておりますが、
乱丁・落丁がございましたら、お取り替えいたします。
定価はカバーに表示してあります。
㊐＜日本複写権センター委託出版物＞
本書の無断複写（コピー）は、著作権法上の例外を除き、
著作権侵害となります。
Printed in Japan　ISBN4-14-080852-7　C0031

第２回「変わる自衛隊　現場からの報告」

出演　小貫武
ナレーション　森田美由紀
取材　稲川英二、小貫武、笠間毅、高宮英人
リサーチャー　小山内園子
撮影　三宅實、桜井勝之、石橋正和
照明　森山正太、三浦好男
音声　服部吉隆、西本秀二、甲斐隆之、小川…登、竹村洋克
技術　大畑夏雄、神戸大樹
音響効果　小野さおり
編集　小澤良美、深堀淳一、市川芳徳、北澤一史
構成　佐藤克利、右田千代、松本卓臣、伯野卓彦
制作統括　田口五朗、高橋聡、山内聡彦、田波宏視、藤木達弘

第３回「討論　日本の進路を問う」

出演　山本孝
撮影　加藤和彦
照明　貫井聡一
音声　岡田和也
技術　布施俊英、山田良則、清水澄雄
音響効果　小野さおり
編集　岡田耕治、安部きくの
構成　小野勇人、津田恭司、森将仁、根津綾子
制作統括　西原譲一、山内聡彦、舘谷徹

●番組制作スタッフ

ＮＨＫスペシャル　21世紀日本の課題　シリーズ安全保障

キャスター　三宅民夫
シリーズ制作統括　川良浩和、山本哲也

世論調査　放送文化研究所
中瀬剛丸、加藤元宣
グラフ作成　金沢恭子、平塚昭彦
映像デザイン　土手内賢一、小池葉子、門岡利彦
ホームページ作成　田野夏鈴
番組広報　戸田晶子
デスク　矢野達史

第１回「徹底検証　日本の備え」

出演　五十嵐公利
ナレーション　森田美由紀
取材　臼井正徳、日置勝一郎、石毛宏幸、田中清隆、
高野洋、皆木弘康
リサーチャー　裵守一
撮影　富永直太郎、佐藤護
照明　程田聡哉、黄東好、三浦好男
音声　倉持和彦、丸山隆、神山豊、南部弘、
中村正巳
技術　渡部良孝、保坂聡子
CG制作　山田成彦、川村聡志
音響効果　尾上政幸
編集　久世賢、西谷和家、比留間博、猪瀬邦男、
宮本潔隆
構成　安西清磨、山本浩司、内田俊一、横山隆宏、
安部慎司、西脇順一郎
制作統括　鈴木賢一、西原譲一、山内聡彦、鈴木真美、
田中宏暁、東野真

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

組み版　ＶＮＣ
図版　小林惑名
校正　鶴田万里子
編集協力　大久保継男／加戸玲子／小川純／田栗美穂

はじめに

２００３年は日本の安全保障にとって大転換の1年となった。6月「有事関連法」が自民、公明、保守新の与党3党に加えて民主、自由の野党も賛成して可決成立した。１９７７年当時の福田内閣以来、政府が検討を進めてきた有事への法的な対応が、初めて整備されることになった。日本の安全保障政策は新たな段階に入った。

さらに「イラク支援法」が7月に成立。イラク戦争後の復興支援のために自衛隊などのイラク派遣を可能にした。医療や生活物資の配布など人道復興支援活動や、アメリカ軍などへの後方支援活動が盛り込まれた。復興支援活動は「非戦闘地域」で実施することを原則としているが、イラク国内では戦争終了後もアメリカ軍などに対する攻撃やテロ活動が続き、派遣される自衛隊が戦闘に巻き込まれる恐れはないのか、国論を二分する議論になった。

こうした情勢を受けて私たちは「日本の安全保障」をテーマにした『ＮＨＫスペシャル　21世紀日本の課題』シリーズの検討を始めた。各部局から記者、ディレクター等が集まってプロジェクトチームがスタートし、夏から秋にかけて本格的な検討が行われた。番組の基本方針を「日本の安全保障の問題に正面から取り組むこと、大きく変わった安全保障の実態を冷静にそして身近な問題として多角的に捉えること」とし、3回にわたり計5時間の放送にすることにした。番組独自に世論調査を行い、メールやファクスで視聴者の意見を募集することも決めた。総選挙終了

後の12月の放送をめざしてチームが動き始めた。

シリーズ1回目は「徹底検証　日本の備え」。政府の想定している有事とは、国民や企業は「そのとき」どう守られどのような協力を求められるのか、番組で明らかにすることにした。2回目は「変わる自衛隊　現場からの報告」。専守防衛とされた自衛隊の活動が海外にも広がるなかで、自衛隊の最前線はどのように変わってきたのか、さらにイラク派遣に対する現場の思いは。私たちの取材は進んだ。そして3回目「討論　日本の進路を問う」は1、2回目を受けて、日本の安全保障はどうあるべきなのか、生放送で徹底した討論を行うことにした。2部構成とし、前半は日本の安全保障に長く関わってきたり、世界平和に発言を続けてきた有識者による討論、後半は政府や各政党の代表者による討論とした。前半には中曽根康弘元内閣総理大臣、後藤田正晴元副総理、ノーベル賞作家の大江健三郎氏、それに栗山尚一元駐米大使の4人に出席を依頼した。

放送の直前になって、日本人外交官2人が犠牲になる痛ましい事件、フセイン元大統領の拘束、さらに自衛隊のイラク派遣の閣議決定など、イラクをめぐる情勢が大きく動いた。1、2回目の放送はいずれも、視聴者から大きな反響を呼んだ。そして3回目の討論。中曽根氏が自衛隊のイラク派遣に強い支持を表明すると、中曽根内閣で官房長官を務めた後藤田氏が「慎重なうえにも慎重に」と、中曽根氏とは一線を画す立場を明らかにする。文学者の立場から核兵器の廃絶や世界平和を訴え続けてきた大江氏は、中曽根氏に強く反論する。豊富な外交・行政経験をもとに、栗山氏が派遣賛成の立場でからんでいく。討論は憲法の改正問題、日本のめざす方向へと進んだ。

それぞれの立場で日本のあり方を考え続けてきた4人の発言が続く。スタジオには緊張した空気が流れた。後半の出席者である政府と各政党の代表者が控え室で4人の討論に見入っていた。

視聴者からは6000通を超えるメールやファクスが寄せられた。37歳の女性から寄せられた「人生の大先輩の話はとても有意義だった」という意見を放送で紹介した。私たちは放送をごらんいただいた視聴者だけでなく、多くの方に今回の討論を知ってほしいと思い、出版を決意した。日本のあり方を考えるうえで大いに参考になると考えたからである。出版にあたっては1、2回目の放送内容も合わせて掲載することにした。ただし、3回目後半の政府と各政党の代表者の討論は、放送の時点で直面していた問題を中心に話が進んだため、出版段階ではすでに時機を逸した箇所もあり、割愛させていただくことにした。ご了解をいただきたい。

番組の最後に三宅民夫キャスターが「今回の番組が、安全保障という難しい問題を一人ひとり自分の問題として考えるきっかけになればと思っています」と結んだ。この言葉に、今回のシリーズとそれをまとめたこの本のねらいのすべてがある。

NHKスペシャル番組センター
エグゼクティブ・プロデューサー
川良浩和
山本哲也

NHKスペシャル

21世紀日本の課題 安全保障

日本の進路を問う

目次

はじめに ―― 1

第1章 討論 日本の進路を問う ―― 7
中曽根康弘／後藤田正晴／大江健三郎／栗山尚一

第2章 徹底検証 日本の備え ―― 43

Point of View 「日本の備え」には何が必要か ―― 76

第3章　変わる自衛隊　現場からの報告 ―― 81

第4章　世論調査と資料 ―― 147

NHKスペシャル「安全保障についての世論調査」の結果より

日本国憲法（前文及び第九条）

日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約

イラクにおける人道復興支援活動及び安全確保支援活動の実施に関する特別措置法

おわりに ―― 169

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

装丁　古閑久明

第1章

討論　日本の進路を問う

出席者

中曽根康弘

1918年、群馬県生まれ。東京帝国大学法学部卒。内務省に入省、海軍主計少佐などを経て、47年に衆議院議員初当選。以後、運輸大臣、防衛庁長官、科学技術庁長官、通商産業大臣などの要職を歴任。82年から87年まで内閣総理大臣。

後藤田正晴

1914年、徳島県生まれ。東京帝国大学法学部卒。内務省入省後、警察庁長官、内閣官房副長官などを経て、76年に衆議院議員初当選。以後、自治大臣、内閣官房長官、法務大臣、副総理を務め、96年政界引退。

大江健三郎

1935年、愛媛県生まれ。東京大学文学部フランス文学科卒。在学中に作家デビュー。58年『飼育』で芥川賞、64年『個人的な体験』で新潮社文学賞、73年『洪水はわが魂に及び』で野間文芸賞。94年ノーベル文学賞受賞、95年同賞記念講演『あいまいな日本の私』刊行。近著に『二百年の子供』。

栗山尚一

1931年、東京都出身。東京大学法学部中退。外務省入省後、北米局長、駐マレーシア大使、外務事務次官などを経て、92年に駐米大使。96年退官、外務省顧問。97年から2002年まで早稲田大学法学部客員教授、99年から02年まで国際基督教大学客員教授。

司会

NHK解説委員／山本孝

〈注〉この章は、2003年12月20日に放送された『NHKスペシャル　21世紀日本の課題　シリーズ安全保障』の3回目「討論　日本の進路を問う」に、各氏が一部補筆・改定を加えたものです。

イラクへの自衛隊派遣

山本　それではよろしくお願いいたします。イラクへの自衛隊の派遣は、航空自衛隊の先遣隊に派遣命令が出されたことによって、いよいよ現実のものになってきました。まずこの問題から始めたいと思います。中曽根さんはこの基本計画★の決定にあたって小泉総理を激励されたということですが、総理の決断の特にどういった点を評価されましたか。

中曽根　世界情勢も考えてみて、それから日本の立場、将来における日本の世界における立場、特に子どもたちが大きくなったときも日本が辱めを受けずに堂々と歩けるような日本にしていくためにも、今ある程度苦労しておかなくちゃいけない。憲法の許すかぎりの範囲内においてできるだけの苦労をしておこうと。そういう意味で激励したわけです。

山本　後藤田さん、ただ、今もイラクは戦闘状態にあるということで、このイラク支援法★が制定されたときとはかなり事情が変わっていると思うのですけれども、そういうなかでの自衛隊の派遣をどういうふうにお考えになりますか。

後藤田　そうですね。戦後60年間、戦闘状態が続いているという場所に、武装部隊である自衛隊が出ていくということは初めてなんですね。この戦後60年のあいだに、日本がいろ

基本計画　イラク支援法（＝イラクにおける人道復興支援活動及び安全確保支援活動の実施に関する特別措置法）に基づいて、イラクへの自衛隊の派遣期間を2003年12月15日から1年間とするなどとした基本計画。03年12月9日閣議決定。

いろな場面で変わってきた契機になるような事件がずいぶんありました。私は、今度のイラクへの自衛隊派遣は、そういう意味で国の転機になるほどの重大な事案ではないかなと思いますね。それだけに自衛隊派遣は慎重のうえにも慎重に、そしてまた、知恵を出して、同時にまた外交努力と並行しながらよく考えてやっていただかなければならない事柄ではないのかと。そう簡単に決断をすべき問題ではないという気がしますね。

山本　大江さんもこの自衛隊の派遣には反対というふうにお聞きをしているのですが、これはどういった理由から反対なのでしょうか。

大江　中曽根さんが、将来のことを考える、子どものことを考える、とおっしゃいましたが、同じ理由で、私はそれに反対です。現在の国際問題ということは、やはり未来に向けて考えなければいけないと思います。そのうえで、先ほど憲法の許す範囲でということを中曽根さんはおっしゃいましたが、自衛隊を外国に送って、そこで戦闘を行うのは、憲法が許す範囲を超えていると私は思いますね。その点で、それは将来の日本人のためによくないし、特に将来の子どものためによくないと私は思うんです。今、そういうことをしないで踏んばっているほうが、将来子どもたちが誇りを持って生きていくためにいいと私は思います。

イラク支援法　国連の安全保障理事会が採択したイラクに対する経済制裁の解除を求める決議などを根拠に、復興支援のため、イラクに自衛隊などを派遣することを可能にしたもので、2003年7月26日に可決・成立した。イラク特措法ともいう。P157参照。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com